

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT



Round.6

SUGO GT 450km RACE

2023年9月16日(土) ~17日(日) スポーツランドSUGO(宮城県村田町)

■ ■ 2位でチェッカーを受けるも繰り上がり優勝によりランキングトップへ ■ ■

土曜日(予選日)の天候は曇。公式練習はウェットからドライに変化するコンディションで行われ、吉田選手と川合選手が交代でドライブします。赤旗再開後のGT300専有時間は吉田選手が担当し、ドライタイヤで4番手(1分18秒781)のタイムをマーク。前戦と同じ、90kgのサクセスウェイトが搭載されていますが、モビリティリゾートもてぎで行われた事前テストで改善のポイントをつかんでおり、GR Supra本来のスピードを取り戻しています。

Q1(ノックアウト予選)のドライバーは吉田選手。予選開始約40分前から雨が降り出したため、レインタイヤを装着してコースイン。雨は小康状態となっており、周回を重ねるたびにタイムが上がっていきます。吉田選手は難しいコンディションの中、4周目に1分25秒963をマーク。2位でQ1を終え、第2戦以来のQ2進出を果たしました。Q2のドライバーは川合選手。雨は完全にあがっており、ドライタイヤを装着してコースイン。川合選手は他車との間隔を慎重に調整し、4周目に1分17秒867をマーク。予選4位につけ、優勝を狙える絶好のポジションを手に入れました。

日曜日(決勝日)の天候は曇。300kmの決勝レースでは、1回のドライバー交代が義務となっており、チームはスタートドライバーに川合選手を起用。アクシデントによる、セーフティカー(SC)導入のリスクを考え、レース周回数数の3分の1を過ぎたタイミングでピットインを行う計画です。川合選手は4位をキープしてオープニングラップを終了。予選3位の#61BRZをぴったりマークするものの、抜き去るほどのスピード差はなく、4位のまま周回を続けます。15周目を過ぎたあたりから、1位から5位までの間隔が詰まり、トップ集団を形成。川合選手は激しい攻防の末、19周目に#61BRZを抜き、3位に順位を上げます。

レース距離の3分の1をクリアした23周目、全チームの先陣をきって、川合選手がピットイン。吉田選手に交代し、給油と後輪2本のみのタイヤ交換を行い、ピットアウトします。コースに復帰した吉田選手の順位は22位。翌周からライバルが続々とピットに入り、吉田選手は大きくポジションアップ。後輪2本のみの交換としたことで、作業時間の短縮に成功し、ピットインを終えたチームの先頭に立ちます。35周目にGT500のクラッシュが発生し、レースは赤旗中断。4周のSC先導を経て、42周目からレース再開となります。吉田選手の順位は3位ですが、52周目と53周目に上位2台が相次いでピットに入り、名実ともにトップへ。

吉田選手はGT500や周回遅れの処理に気をつけながら力走。後方からランキングトップの#18NSXが追い上げており、つかず離れずの息詰まる展開が続きます。吉田選手は約6秒差のリードを保ち、ファイナルラップへ。しかし、最終コーナーを立ち上がった登りの直線区間で突如失速。ガス欠症状が発生しており、吉田選手は車体を左右に振りながら、数百メートル先のチェッカーを目指します。しかし、コントロールライン直前で#18NSXが吉田選手を抜き去りチェッカー。吉田選手は2位となり、ピットには重苦しい雰囲気が漂います。しかし、レース後の車検で#18NSXが失格となり、繰り上がり1位に。待望の今シーズン初優勝を記録しました。



決勝結果(GT300クラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 1位(79周、2時間46分17秒002)
予選: 4位(Q2: 1分17秒867)

■ DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) Q1の時に雨が降り始め、スリックかレインかというコンディションでしたが、後半になるにつれ、水は減っていく方向でした。レインタイヤとはいえ、前半でアタックすると後半でタレ、みんなであ走っていると詰まったり広がったりする可能性もあります。クリアでアタックするためのギャップ作りがちょっと難しかったのですが、タイヤが落ちる手前でうまく走れて、孝汰につなぐことができました。SUGOは抜きにくいので、前からスタートできるのはとても大事なことです。

(決勝後) 本当に運が味方してくれました。もてぎのテストでヒントをつかめ、SUGOでも変わらないスピードがありました。ただ、ベースは悪くないものの、ストレートが厳しく、なかなか前を抜くことができないので、そのためにチームが考えてくれたのがミニマムでピットに入り、リア2本だけを交換して前に出るという作戦でした。土日通じて練習したのですが、リア2本でも意外とバランスが良く、これはありだねとなりました。みんなで攻めた結果がガス欠だったと思うので、チームに対して思うことはないです。残り2戦、シリーズチャンピオンを争っていかないとはいえず、いいレースになったと思います。



川合孝汰 選手

(予選後) アタックはミスなくまとまっていたと思いますが、あとコンマ1秒上がったら2番手だったので、どこかにコンマ1秒が落ちていたんじゃないかなと悩んでいます。トップの17秒フラットはどうやっても出せないで、上位にいればいいと思っていました。今週、初めて初新品タイヤを履いたので、グリップレベルを探りながらのアタックでしたが、思ったより上に行けたので良かったです。天気予報を見て、予定よりも1周あとにアタックをしたのですが、それも良かったです。

(決勝後) 優勝できたことは素直にうれしいです。ガス欠症状が出たことや、ピット作業でのちょっとしたミス、ぼくのパートでの接触や吉田さんの飛び出しなど、細かいミスがあった中で、優勝という結果に持っていけたのは良かったと思います。序盤の接触はそんなに大きな衝撃ではなく、逃げる方向に力が加わったので、内部を損傷せずに済みました。次のオートポリスはGR Supraが得意とするコースですが、チャンピオンも優勝も狙ってとれるものではありません。今回のようなミスでポイントを取りこぼすことがないように、さらに徹底して、1戦1戦を大事に戦っていきたくと思います。



GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR Supra)	79周
2位	SHADE RACING GR86 GT(トヨタ GR86)	78周
3位	DOBOT Audi R8 LMS(アウディ R8 LMS)	78周
4位	SUBARU BRZ R&D SPORT(スバル BRZ GT300)	78周
5位	グッドスマイル初音ミク AMG(メルセデス AMG GT3)	78周
6位	LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG GT3)	78周

天候:曇 路面:ドライ ※トップ6まで(出走25台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	65
2位	7	BMW Team Studie×CRS	56
3位	56	KONDO RACING	53
4位	18	Team UPGARAGE	49
5位	2	muta Racing INGING	48
6位	61	R&D SPORT	44

トップ6まで

【次戦予告】 第7戦 10月14日(土)~15日(日) オートポリス(大分県日田市)

■ PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



小倉クラッチ株式会社



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



株式会社セーフティライフ



大和ラヂエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC

※50音順